

CERTIFICATE OF ENCOUNTER

ONE DOLLAR — *Symbol of Encounter*

Gillettenarrative.com

Nando the Scribe



Fronte — Signature

Retro — Signature



なぜOne-Dollar StoriesはWall Streetに存在するのか

1. 人類は、自分自身を見ないために分ける

何世紀ものあいだ、私たちは人をカテゴリーに分けてきた。善人と悪人、金持ちと貧乏人、男と女、健康な人と病人。こうしたラベルはアイデンティティを築く助けにはなるが、私たちが本当は何者なのかを決して説明しない。それは近道だ。仮面だ。本当の問いを避けるためのやり方だ。ほかのすべてを取り去ったとき、何が残るのか。

2. 本当の区別は社会的なものではない — 実存的なものだ

人生のある時点で、私は富と貧しさ、成功と失敗、強さと弱さを見るのをやめた。もっとはるかに正確なものを見るようになった。必要と欲求だ。必要はあなたを生かす。欲求はあなたの気を散らす。たいていの人はこの2つを混同している。

3. ほとんど誰も口にしないことを、私は学んだ

裕福な人間がどうすれば貧しさを扱えるのかを理解するのに、私は何年も費やした。悲惨ではない。欠乏でもない。何が本質で何が雑音かを教えてくれる類いの貧しさだ。その教訓がすべてを変えた。芝居を剥ぎ取った。幻想を剥ぎ取った。金が何かを定義するという考えそのものを剥ぎ取った。

4. 私は本を書いた、たくさんの本を

1、2、5、10、50、100、500、1200、3000、3800、4200。多くの書き手と同じように、私もそれを出版し、売り、印税を数え、数字で成功を測ることを思い描いた。そこへ合図が届いた。明瞭で、鋭く、否定しようのない合図が。これは私の道ではないと、それは告げた。私の仕事は物語を売ることではなかった。関係を作ることだった。

5. ほとんどすべては無償で配ることができる

金は富ではない。金は意味ではない。金はアイデンティティではない。必要なものをまかなうための、ただの実用的な道具だ。ほかのすべて — 知識、真実、物語 — は、無償で与えることができる。

6. だからOne-Dollar Storiesは存在する

私は本を売らない。無償で配る。

代わりに求めるのは、両面に署名された1ドルだ。支払いとしてではない。施しとしてではない。商取引としてではない。承認の行為としてだ。認知の交換。こう告げる合図。私はここにいた。これを受け取った。この関係を認める。

7. この身ぶりは普遍的だ

あなたが誰であるかは関係ない。アメリカ合衆国大統領。ローマ教皇。多国籍の大企業のCEO。角の果物売り。1ドルは同じままだ。身ぶりも同じままだ。価値は価格によって生まれるのではないからだ。価値は関係によって生まれる。

8. 私たちは本を売らない。関係を築く。

これが核心だ。これがシステムだ。これがプロトコルだ。One-Dollar Storiesが存在するのは、物語こそが私たちの死後も生き残る唯一の富だからだ。そして、たったひとつの身ぶり — 1ドル — が、人間のアーカイブをまるごと開くことができるからだ。

フェルディナンド